

## 論文の内容の要旨

論文題目 近現代中国における女子大学の創設と変容

氏 名 加藤靖子

本研究は、民国期から現在にかけての中国における女子大学の創設と変容を分析することを通して、中国の女子高等教育機関の特質を解明することを目的とするものである。

女子高等教育機関、とりわけ女子大学に関する研究は従来女子高等教育研究というテーマの中で蓄積されてきた。個別の女子大学の歴史をテーマにした研究を除き、女子大学そのものを対象とする研究は多くなかったが、近年その相対的地位の低下と共に増加しつつある。その中では、女子大学の役割や特徴の分析を通して存在意義を明らかにしようとする研究が多い傾向にあるが、存在意義の有無は必ずしも量的拡大・縮小を決定づけるものではなく、縮小をもたらす構造の解明には至っていない。これを明らかにするためには女子大学の創設や変容を歴史的に見ていく必要があると考える。

本研究では、中国を対象に女子高等教育機関の創設と変容を検討した。現在に至るまでの中国ではイデオロギーの異なる二つの時期に女子高等教育機関が設立され、いずれも本格的な量的拡大をみないまま衰退しているという歴史を持つ。また、中国の女子大学の多くは公立で、主要なアクターを歴史的に追いやすいと考えられるため、その設立と変容を追うことで、中国における女子高等教育機関の存立構造の一端を解明できると考えた。

本研究は中華民国期と1980年代改革開放政策以降の二つの時期から構成されている。中華民国期は第2～3章にあたり、中華民国政権下での女子高等教育機関及び日中戦争期に中国共産党が革命根拠地に設立した幹部養成機関の設立を考察する。これらを考察するのは、

1980年代から現代まで続く女子高等教育機関のいわば源流または前史とも位置付けられるからである。

このような認識の下、第2章では大学が女性に対しその門戸を開放する1920年前後から北京女子師範大学が合併により共学化する1930年代初めの時期を考察した。この時期の女子高等教育機関は、大学の門戸開放があったとはいえ潜在的には女子高等教育機関の量的拡大が起きる可能性もあった。しかしながら、中央・地方とも慢性的な財政難を抱え共学校の維持すら困難であり、別学機関の増設は現実的ではなかった。また、各段階における学校配置は地方の裁量に任せられており、初等学校の発達している省が中等学校では非常に遅れているというような不均衡な発展や女子の多い師範科の大学進学が制度上困難という状況があり需要自体が低迷した。1930年代に入ると女子の中学卒業者が増加したが、すでにほとんどの大学に女子が在籍しており、代替物としての女子高等教育機関は必須のものではないという状況が生じた。門戸開放が需要に先行したというタイムラグがこの流れを決定づけたと指摘した。

第3章では、日中戦争期に共産党が革命根拠地に設立した女性幹部養成機関の設立背景を考察した。マルクス・レーニン主義を掲げる共産党は単一志向性を持ち、教育でも男女で同一、すなわち共学制の学校を志向する。しかしながら、中国では単一性が極端に進んだ文化大革命期を除き別学機関が設立されている。そこで、この章では別学機関を正当化するロジックを明らかにすることを試みた。女性幹部養成機関が設立された1939年前後は共産党の活動の中心が陝西省の農村に移っていたが、そこは保守的な土地柄であったため男性が女性工作に従事することは実際困難であった。その上、女性幹部自身が農村での宣伝活動などの地味な女性工作を嫌がる傾向もあった。女性幹部養成機関は女性工作専従要員不足を解消するために設置されたのである。また、共産主義のイデオロギーとの矛盾を回避するために、男女が平等な地位を獲得している環境で、女性だけの機関を設けることは女性重視の表れだとの説明がされている。さらに、当時の幹部は「女性解放は女性自らの手で行うべき」との価値観を持っており、このような意識が別学機関設立への抵抗感を薄めていたと言える。

第4章以降は改革開放政策開始から現代までを扱うが、1980年代からの女子高等教育機関設立の背景に対する理解を進めるために、文化大革命前後の女性の状況を教育と就労という点から概観した。文革終結後、共産党は幹部採用における専門知識重視を打ち出したが、当時は中等教育を受けている女性が少なく、就労でも不利な状況に置かれていた。一方当時の中級以上の女性幹部では大半に中等教育以上の学歴があり、女性が高い地位に就くためには高等教育が必要であった。したがって、女性の地位向上のためには女性の再教育や高等教育アクセスの改善が急務であったのである。このような状況に対し、女性のための人民団体である中華全国婦女聯合会（全国婦聯）が中心となって改革を行っていくのであるが、第5章で全国婦聯がいかなる組織であるのかを考察した。

全国婦聯は党と女性大衆を結ぶ組織であると自らを規定している通り、共産党の指導の

下にある。同時に、全国婦聯を特徴づけているのは「女性」という生物学的属性であって、具体的な管轄領域を持っているわけではなく、就労問題などでは労働組合の協力が必要であった。その意味で、婦聯の活動には一定の制限があり、縦と横の制約の中で課題を解決しなければならない状況にあった。このような理解の下、続く第 6 章で全国婦聯が女子高等教育機関を設立した経緯と目的について考察した。

中国に女性のみの公立高等教育機関が設立された直接的な要因は、共産党の幹部教育正規化指示であった。全国婦聯はこの指示を好機と捉え積極的に女子大学設立へ向けて動いた。その最も大きな理由は共産党が打ち出した幹部採用における学歴重視（中等専門教育レベル以上の者から採用）に対し対応する必要があったからである。当時の女性中・高級幹部さえも後期中等教育を受けたことのない者がおり、女性幹部の再教育を行う必要があった。また、全国婦聯は女性の社会進出を活動の「要」としていたこともあり、女性の就業機会を高めるためにも女子高等教育機関の設立をすすめるようとしたのである。社会主義国であるにも関わらず、女性の学歴が低かった理由は文革期までの産業構造にあった。改革開放政策が開始されるまでの中国は労働者の 7 割が第一次産業に従事しており、第二次産業の発展したソ連と比べて高い教育レベルをあまり必要としなかったのである。女子大学を女性の社会的地位向上を推進させる役割を果たす「女性の最高学府」と考える全国婦聯は、その後北京での女性会議開催決定を機に大学の整備を進め、成人高等教育機関から普通高等教育機関への転換を果たした。

改革開放政策開始後、全国婦聯が設立した公立女子大学とは別に、民営の女子高等教育機関も誕生しており、第 7 章ではこれらについて考察した。中国では民営の教育機関は従来存在しなかったが、行政が方針転換し、民営学校も正規の学校として認められるようになった。1980 年代から 90 年代初めにかけては、民営女子高等教育機関設立を担ったのは個人やかつて存在した女子大学の同窓会、既存の共学公立大学であった。設立目的としては、①教育条件の劣る女性に高等教育進学機会を増やし、女性の社会的地位向上に資するため、②地域の経済発展に必要な人材を養成するため、③母校の復興、④自校の規模拡大のため、が掲げられ、民営女子高等教育機関の創設目的は多様であった。

最後に第 8 章では、1990 年代半ば以降の中国共産党及び全国婦聯の女性政策について概観するとともに、女子大学の現状を考察した。文革終結後の中国女性の教育レベルは全体的に低かったが、近年女性の高等教育進学率が上昇してきたことで女性に関する政策にも変化が現れた。当初は高等教育での女性の量的拡大が目指されたが、2000 年以降は学問領域における性別的な偏りの是正や特性教育が打ち出されるなど量から質への転換が見られた。2010 年代からは学歴教育よりも卒業後の継続教育を重視する政策になった。政策的な変化を受け、学歴教育を目的とする別学高等教育機関は設立されなくなっており、既存の女子大学の多くも実質上共学化している。

中華民国期から現在までの女子高等教育機関設立の経緯の考察から得られた知見は以下の通りである。現代中国の別学高等教育機関は政策主導型であるという特徴があり、基本的

には政府の打ち出した方針の具体化という形で別学機関が設置され、教育内容も決定される。とはいえ、創設側も全くの受け身ではなく政府方針を利用して自らの望みを実現したと言える。また、別学機関設立は「女性」団体である婦聯にとって社会に自らの存在意義を認めさせ続けるための自己増殖的な存在アピールでもあったともいえる。この意味では今後、も何等かの形で「女子」高等教育機関が設立され続ける可能性があるが、実態として「女性のみ」を維持するかは不明である。存続については需要の影響も小さくなく、既存高等教育へのアクセス制限が緩和されれば代替物としての女子高等教育機関の役割は失われ、入学希望者が減少すれば共学化する可能性が高い。

マルクス・レーニン主義では男女共学制を前提とするが、中国の場合は共産党中枢幹部が女性解放は女性の手で行われるべきとの価値観を持ち、女性のみを対象とした訓練を当然視していたことや幹部教育と普通教育の境界が曖昧だったことが別学高等教育機関設立を容易にしたと言える。しかし、現在はアフターマティブアクションとしての存在意義は失われている。中国では女子高等教育機関は婦聯と不可分の存在であり、女子高等教育機関が今後どのような道を辿るかは婦聯が「女性のみ」という環境をどのように考え、「女性」をどう定義するかにかかっていると思われる。

作成に使用したソフト名： Microsoft Word

バージョン： Microsoft Word for Microsoft 365 MSO(16.0.13328.20408)64 ビット